

科目名	国際政治史	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	黒田 俊郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350008	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	20世紀前半のヨーロッパ国際政治史を題材に国際政治を歴史的に考察する際の基本事項を理解すること。また国際学部ディプロマポリシーのうち、「グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向きあう実践的な態度を獲得」することに資することを目標とする。				
学修到達目標	国際政治を歴史的に考察する際の基本事項を理解すること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	授業の全体像の提示。ジョレス、ブリアン、ブルムという三人のフランスの政治家に着目し、彼らの思想と行動とその結果をヨーロッパを舞台に考察し、第一次世界大戦～第二次世界大戦期における戦争と平和の問題を検討する。
第2回	第一次世界大戦前史。
第3回	ジャン・ジョレス概説。

第4回	第一次世界大戦とジャン・ジョレス①。
第5回	第一次世界大戦とジャン・ジョレス②。
第6回	第一次世界大戦とその影響。
第7回	1920年代概説。
第8回	アリスティード・ブリアン概説。
第9回	1920年代とアリスティード・ブリアン①。
第10回	1920年代とアリスティード・ブリアン②
第11回	1930年代概説。
第12回	レオン・ブルム概説。
第13回	1930年代とレオン・ブルム①

第14回	1930年代とレオン・ブルム②
第15回	第二次世界大戦とその影響
第16回	定期試験。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前回の授業内容をよく理解しておくこと
【復習】時間・内容	2時間。前回の授業内容をよく理解しておくこと

成績評価	
評価基準・方法	成績評価方法は、受講生の数に連動して決める。少人数の場合は、毎回の授業への参加に基づき、人数が中規模の場合は、期末レポートに基づき、大人数の場合は、期末筆記試験に基づくことを原則として、最終的には受講生と相談して決めることとする。
フィードバック方法	成績評価に関するフィードバック方法は、少人数の場合には、個別にメール等で授業参加の講評を伝えることを、人数が中規模な場合及び大人数の場合は、ポータルや掲示にてレポートや試験の最優秀答案を公表し、講評を加えることを原則とする。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	教科書は使用しない。参考書等は授業の中で適宜紹介するが、とりあえず何冊か挙げておくことにする。君塚直隆『近代ヨーロッパ国際政治史』（有斐閣）。細谷雄一『国際秩序』（中公新書）。岡義武『国際政治史』（岩波現代文庫）。齊藤孝『戦間期国際政治史』（岩波現代文庫）。
受講上の留意点等	上記成績評価方法記載事項に留意して受講の有無を決めること。
JABEE	